



元 気 通 信

～かけ橋～

ブダペスト日本人学校
学校だより 第11号
令和3(2021)年2月9日
校長 松丸 晴美

かん ごとえ 寒 肥

立春を過ぎ、暦の上では春になりましたがまだまだ寒い日が続きます。先週2月4日には、日本の関東地方で、観測記録最早の「春一番」が吹いたというニュースを見ました。奇しくもこの日、ブダペストでもぐんぐん気温が上昇し、まるで「春一番」のような強い風が吹きました。やはり世界はひとつにつながっているのですね。

さて、1月号で紹介した5年生の連絡帳ですが、「小さな幸せを感じたこと」がたくさんたまってきたでしょうか？あの後、私も子供たちにならって小さな幸せを感じた時に、メモをつけてみました。

①校長室で仕事をしている時に聞こえる子供たちのアルトリコーダーの音色・・・何とも心が癒されます。②雪がうっすら積もった校庭で、元気に雪投げをしてはしゃぐ子供たちの姿・・・笑顔になれます。③冷え冷えとする夜明け前の暗い道を歩いて学校に着いた時に見える校舎の灯り・・・心が温かくなります。子供たちのおかげで、毎日、小さな幸せを見つけることができるようになってきました。

先週6日(土)の「作品展」には、たくさんのご家族にお越しいただきありがとうございました。2学期からの子供たちの学びの足跡である作品は、なかなか見ごたえのあるものばかりです。短い時間でしたが、楽しんでいただけたでしょうか。子供たちの個性あふれる力作を見ながら、つくづく「オンライン授業にならなくてよかったなあ」と思いました。互いの作品や展示物を鑑賞し合うことは、とても貴重な



学びの機会になります。

この時期、街の花屋さんでは、少し芽の出た球根をよく見かけるようになりました。植物に、この寒い時期に与える肥料のことを「寒肥(かんごとえ かんぴ)」と呼び、この肥料を与えるかどうかで、春になってからの成長に大きな違いがでるのだそうです。植物の三大肥料のひとつ窒素は、主に葉や茎を、リンは実や花を、カリウムは根を丈夫に育てるそうです。バランスのとれた成長には、バランスのいい「寒肥」が必要です。

そういえば、日本のプロ野球の選手は、2月からキャンプインして、来るべき開幕シーズンに向けて技能や精神力を磨き上げます。キャンプの成果がそのシーズンの成績を決めるといってもよいでしょう。

子供たちが学年末のテストやまとめの学習で机に向かう時、好きな教科や得意な教科の学習にはすぐ取り掛かれても、とかくあまり好きではない教科や苦手な教科は後回しにされがちです。しかし、不得手なものこそ、時間をかけてじっくり取り組み、新年度に向けて、バランスのとれた学力を身に付けてほしいと願っています。